

県民におくる二つのゆめ

# 天草石油王のま自ら身

思いがけぬ発見

天草島は以前から地質学的にも石油の出る可能性があるといわれていたが、去年の二月松島町合津で、県主催の石材講習会があつた時、知十部落の石切場で石油を含んだ「油石」を発見してから急に話が日の目をみてきた十二月になつて帝國石油(株)から重役をふくむ四名の技術者が来て、現地調査の結果、この「油石」が石

油露頭として確認され、しかも本調査によつて天草島が石油を出すに十分な条件をそなえていることもわかつた。  
県では、これが開発を促進するため、数回にわたる油田地調査や地化学探査などを行つてきたが、その結果、前記の合津以外にも上島方面では姫戸村の井戸や大矢野町長砂連の井戸に、又下島では、本渡市大門や五和町鬼池の海岸に、それ／＼石油露頭を発見したのである。  
一方、帝國石油でも本年七月岸本社長一行が現地調査するなど、前後三回にわたる重役陣の現地踏査が行われ、ここでも非常な期待を持つてゐる。

## 天草石油資源図



## 次はボーリングへ

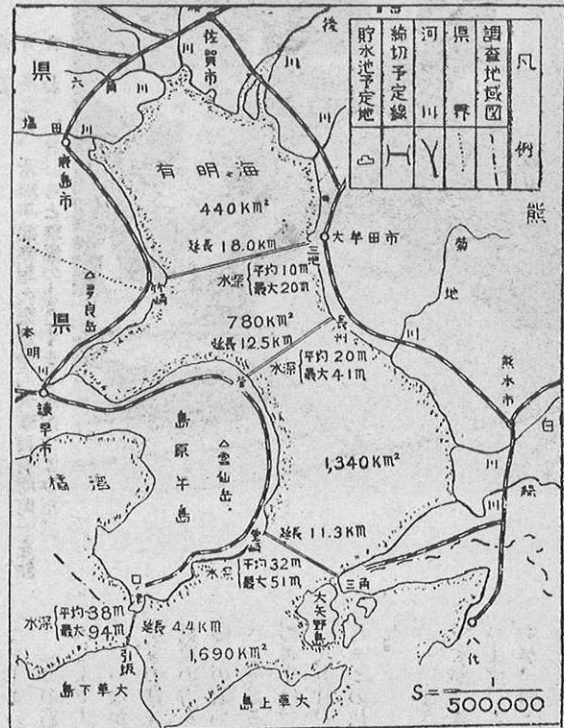
現在、帝石本社から技術者二名が来て、約二ヶ月にわたつてくわしく調査しておりその外にも熊本大学と鹿児島大学による全島の地質調査が続けられてい

将来に益々希望を持たれるのでありやがて本格的な開発が実現したならば、本島の産業に大きな飛躍が期待できるばかりでなく、日本の石油資源分布についての考え方も変わるものとして、各界から注目を受けている。  
(商工課)

## B. 見通し明かるい天草油田

## A. 世紀の大事業有明干拓

### 有明海調査地域



縮切案	縮切箇所	縮切線延長	平均水深	最大水深	内面積
三池線	三池一竹崎	一八〇m	二〇m	三〇m	四〇〇平方(四、〇〇〇町歩)
長洲線	長洲一萱	三、五〇m	二〇m	四〇m	一、〇〇〇(一、〇〇〇町歩)
三角線	三角一堂崎	二、三〇m	三〇m	五〇m	(四、〇〇〇町歩)
口の津線	口の津一引坂	四、四〇m	三〇m	四〇m	(九、〇〇〇町歩)

## すゝむ実地調査

## 恵まれた干拓の適地

有明海は、千七百平方方呎という広くて浅い海であつて、全国第一の干拓の差(六米)がある。

この有明海縮切干拓計画について、関係各省では、すでに調査の全体計画(予算一四億円)を立てて、三十二年までに千四百万円を投じて模範実験などの調査を進めている。

でも一六〇万円で経済調査を行うことになつた。  
経済企画庁も直接九州経済調査協会に五〇〇万円を委託し、有明海干拓をふくめた九州総合開発の基礎的な調査を行うことになつてゐる。  
このように本年度からいよいよ本格的に調査が進められ、計画も具体化してきたが、何といつても世紀の大事業であり、それ／＼の得失があつて、各種のぼう大な基礎調査が必要であるので、調査費の増額、総合調査事務所の設置、有明海開発調査委員会の設置などを強く要望してゐる。

ある。また筑後川、菊池川、白川、緑川などから流れたす土砂の量が多いので、干潟が出来て、全国でも稀な干拓の適地となつてゐる。しかも土壌、気象条件などに恵まれ、さらに海底炭も無尽蔵といわれる

一方オランダの干拓の権威者などにも現地調査をたのみ、また有明海沿岸の関係四県でも、三十二年までに二千万円を投じて調査を進めてきた。  
三十三年度には関係各省の調査費一、六二二万円、経済企画庁からの調査調整費一、五一二万円、各種の基礎調査をほどこし、また関係係

は口の津線の家があるが、三角線又全縮切、不完全縮切などの案があるが、三角線又